

北海道浮魚ニュース

令和3(2021)年度13号

2021年8月30日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎イカ類南下期資源調査結果

・調査海域のスルメイカ分布密度は低い水準にあった

- ・調査期間：2021年8月19～24日
- ・調査海域：道東太平洋沿岸
- ・調査船：北辰丸(255トン、イカ釣機5台装備)
- ・調査方法：イカ釣機による1晩2地点の夜間釣獲調査、CTDによる海洋観測

1. 水温環境及び流向流速

調査点10点の2021年の表面水温は13.9～18.4℃(昨年：15.6～19.2℃)、50m深の水温は4.9～15.0℃(昨年：5.8～12.2℃)の範囲にありました(図1)。昨年との比較では、厚岸沖 St.7 以東の4点では表面と50m深いずれも昨年より低水温となっており、スルメイカ分布の目安となる50m深で10℃以上の水温を下回っていました。一方、昆布森沖 St.6 から広尾沖 St.2 にかけての海域では表面・50m深ともに昨年より高水温となっていました。襟裳岬東側 St.1 では、表面で昨年より低水温、50m深で昨年より高水温となっていました。

今回の調査で ADCP (超音波流速計) により得られたデータのうち、広域的な水塊構造の目安となる100m深の流向流速を図2に示しました。根室沿岸に東から西に向かう親潮の水と考えられる流れがみられ、この海域でみられた低水温は親潮の影響を受けているものと考えられます。

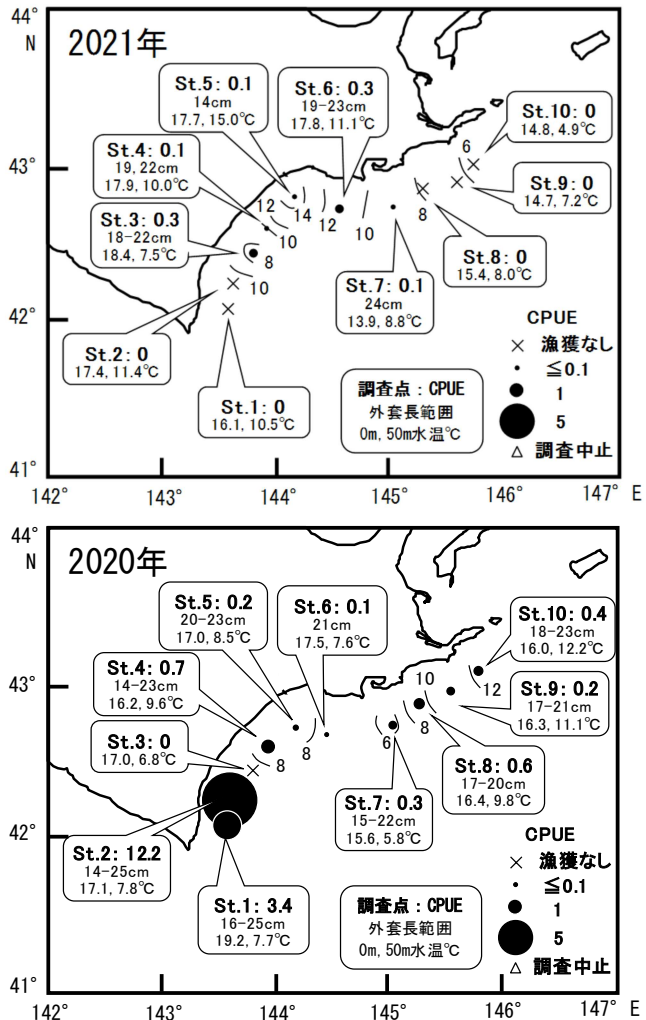


図1 2021年(上)と2020年(下)の漁獲調査結果と水温。●は漁獲調査点を示し大きさはCPUE(イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数)を表す。等温線は50m深の水温分布

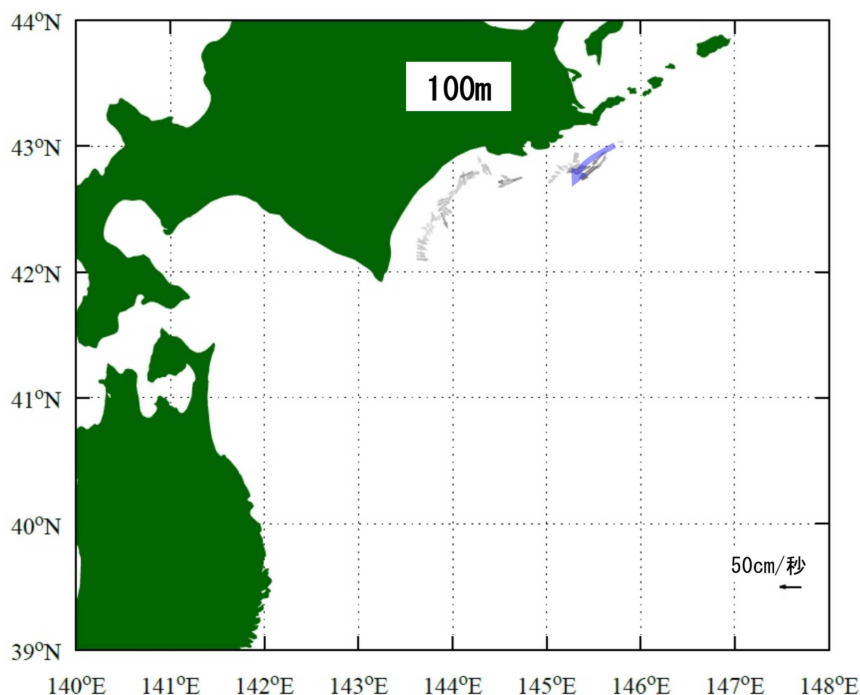


図2 ADCP観測により得られた100m深の流向流速。青い透明矢印は模式的に表した全体的な流れの概略

2. スルメイカの分布密度

スルメイカの漁獲がみられたのは大樹沖 St.3 から厚岸沖 St.7 にかけての計5調査点で、広尾沖から襟裳岬にかけての2調査点及び浜中沖から根室海域にかけての3調査点では漁獲がみられませんでした。分布密度の指標となる各調査点のCPUE(イカ釣機1台1時間あたり漁獲尾数)は最大で昆布森沖 St.6 及び大樹沖 St.3 の0.29と低い値に止まり(図1)、全調査点の平均CPUEも0.09と昨年(1.80)を大きく下回り過去最低の値となりました(図3)。

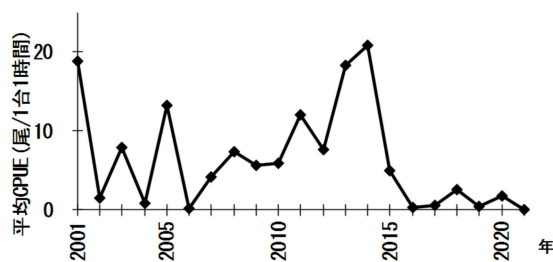


図3 8月道東太平洋調査におけるスルメイカ平均CPUEの経年変化

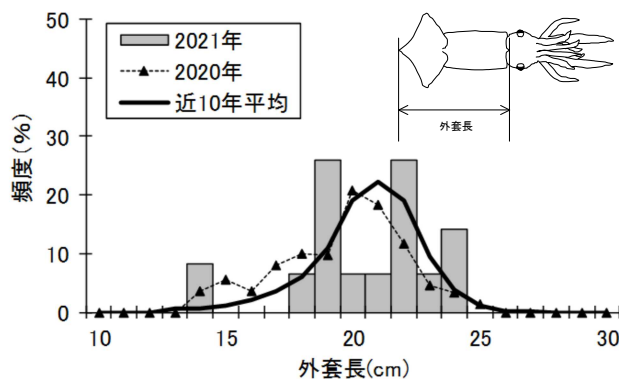


図4 8月道東太平洋調査におけるスルメイカの体長組成

3. スルメイカの大きさ

全漁獲調査点のスルメイカの外套長(胴長)は14~24cm(昨年14~25cm)の範囲にありました(図1、図4)。海域全体の外套長のモード(最も多く漁獲されたイカの大きさ)は19cmと22cm(昨年20cm)にみられました(図4)。

4. アカイカ

本調査でのアカイカの漁獲は昨年に続きみられませんでした。